

Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：遠藤 靖彦 幹事：武田 良和

地区目標

ロータリーにもっと誇りを
そして学び DEIの心を持って行動実践しよう

クラブテーマ

ロータリーを楽しみ、仲間と絆を！

◆点鐘：遠藤 靖彦 会長

◆ロータリーソング：奉仕の理想

◆司会：佐藤 淳 S.A.A.

◆会場：山形グランドホテル



第**3043**回例会

令和7年**3月10**日(月)

会長あいさつ

遠藤 靖彦 会長



前回、油についてお話をさせていた
だきましたが、暫定税について皆さま
にご説明させていただければなと思
います。石油製品についてはいろんな税
金がかかっております。まず輸入をす
る段階で関税、そして石油石炭税とい
うもの、これが合わせて約3円。そし

てガソリン税といわれるものが約54円。これに暫定税と
いうものが入って、現在この金額になっております。

ガソリンだけでなく軽油、こちらについても暫定税とい
うのは17円ということにかかっております。灯油には入っ
ておりません。ではこの暫定税というのが導入されたのは
1968年。この年、高度経済成長の時期に、ともかく道路
の財源が足りなくなった。道路をどんどん造るためにはそ
ののための費用を受益者負担でやってもらおうということ
で、車に乗っている人からその分を徴収しようというのが
この暫定税というものができた背景であります。

燃料油価格がどんどん高騰して、燃料油価格激変緩和補
助金というのが数年前から出だしたと。今それを抑える方
向として、去年の12月、今年の1月で5円ずつ下げて、今
現在でも約10円近くの補助が出た状態でガソリンの販売
が行われているというのがこれまでの暫定税に関しての状
況であります。業界としてはこの暫定税を廃止してほしい
ということ国には強く要望していますし、二重課税とい
う部分、Tax on Taxの部分もありまして、ガソリンに関
しては五十何円かかった税金の、仕入れに対して消費税が
かかっています。ですから54円に消費税がかかって約60
円近くが税金の部分という流れになっております。

ところが軽油の税金というのは地方税でありまして、こ
の軽油の税金を徴収する義務者は私たち地元の業者になり
ます。そういう関係から軽油についてはこの軽油税に関し
て消費税はかかっていないという形で販売されています。
ガソリンについてもそういう形をとってほしいなというこ
とで、国に要望しているというのが現状であります。国
としましては、お酒やタバコと同等に元からその商品価格
に乗ったものに対して消費税をかけるんだと、これは
二重課税ではないという言い分があるそうです。今石油に
はこのような税金がかかっているよということをご紹介を
させていただきます、会長挨拶とさせていただきます。

幹事報告

武田 良和 幹事

●最終のクラブ協議会は6月21日の予定でしたが、諸般
の事情で6月28日土曜日に変更となります。また、ま
だ確定しておりませんが6月16日の通常例会を6月
14日に変更することを今検討中ということで、蔵王の
樹氷再生プロジェクトがらみになります。よろしくお
願いします。

委員会報告

山科 宏行 委員長

職業奉仕委員会

3月24日、職場訪問例会を予定しております。12時15
分からこの会場で例会を開催させていただき、お食事
をお取りいただいたのちに移動。13時15分から見学いた
だき、13時45分で会議が終わるということで、議場を
見学いただいたのちに解散、このような流れになって
おります。多数の会員の皆さま方のご出席を賜って
おります。まだご返答いただいていない会員の皆さま方、ぜひ
ご参加をよろしくお願いいたしますと思います。どうぞよ
ろしくお願いいたします。

ニコニコ BOX

〈3月10日〉

長澤裕二さん／ドキュメンタリー映画祭、加藤理事長を
お迎えしました

東北芸工大の教授でドキュメンタリー映画祭理事長をお
迎えしました。ニコニコします。

市村清勝さん／加藤理事長をお迎えして

山形国際ドキュメンタリー映画祭はもう世界に誇る山形
の文化になっています。これからも進化していくことを
期待しております。

遠藤正明さん／加藤理事長、岡部理事をお迎えして

ようこそ。卓話を楽しみにしております。ドキュメンタ
リー映画祭について目いっぱい話してください。

坂部登さん／モンテディオ山形

ようやく1勝、これからJ1を目指してがんばれ。

ゲスト卓話



山形国際ドキュメンタリー映画祭の これまでとこれからの運営について

加藤 到 さん

《認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭 理事長》

今日は「これまでとこれから」ということで、これまでのことをまずはお話ししたいと思うのですが、1989年に山形市の市政100周年事業として始まっております。それでいろんなことが仕掛けられて、今残っているのは蔵王のジャンプ大会とドキュメンタリー映画祭だそうです。

私はその頃東京に住んでおりまして、フリーランスのライターをやっている、文化関係、若者文化関係を雑誌や新聞で紹介するライターをやっていたのですが、「山形県でそんな大した映画祭が始まるわけがない」みたいな高をくくっていて、取材に行かなかったんですね。そしたら友人たちが電話してきて、「加藤くん、なんで来ないんだよ。すごい映画祭が始まったよ」なんて言われて、「あー、失敗した」と思って。2回目は観客として参加しました。3回目は学生たちを連れてボランティアとして参加して、それからずっと映画祭に関わっていて、去年から理事長をさせていただいています。

当時、バブルの真っ盛りだということもあって、日本国内には地方の映画祭がたくさんできたんですね。でも続いているところは本当に少なく、今やほとんど残っていません。

ではなぜ山形だけ残ったのだろうという、本当に不思議ですけれども、それを私なりに考えてみて、3つの要因を挙げさせていただきます。まずは山形が小さな町であるということ。これがいいんですね、映画祭にとって。例えば東京国際映画祭なんてありますけれども、予算は山形よりも何倍もかけてすごい映画祭なわけで、有楽町、日本橋、六本木、そういう映画館を使って映画祭を開催するのですけれども、映画館から1歩外に出ると日常の東京の街なんですね。だからどこにも映画祭という形は見えないわけです。ところが山形の場合は町全体が映画祭になってしまうと。映画祭が始まった30年前なんかは、その1週間だけは外国人がウロウロウロウロ。町なかを歩ける、映画祭の会場を徒歩で移動できるということがね、非常にいい。町の規模から言うと、山形はちょうどいいんだというのが1つです。

それから山形市民のおもてなし。県外から来たお客さんに対してとってもあたたかいサービスをしてくれる。もうなくなってしまって残念なのですが、香味庵まるはちさん、お漬物屋さんですね。あそこの蔵で香味庵クラブという映画関係者が集う飲み会の席を設けていたのですが、そこなんか非常に評判がよくて、最後に別れる時に「次は香味庵で会いましょうね」という合言葉が映画人の間に定着したくらい有名になった場所ですね。だからそういうものが提供されているというのもとても山形の魅力になっているのだと思います。

最後はドキュメンタリー映画とは何かということなのですが、今はドキュメンタリーとドラマ、フィクション、劇映画、そのボーダーというのははっきりしないという感じになっています。しかし、山形の映画祭はドキュメンタリー映画祭なのだから、そこで出てきた作品が「これはドキュメンタリーじゃないから出品できませんよ」ということを一切言わずに、監督がドキュメンタリー映画祭に出品し

てきたものは全部受け入れると、そういう姿勢でやってきたんですね。ですから今では逆にドキュメンタリーとはどういうものかという時に「山形でやっているような映画がドキュメンタリーなんだよ」と言ってもらえるような、そんな状況になっている。だからこれをやっぱり2回目からこういうコンセプトで始めたというのは非常に先見の明があったというか、英断だったのだなと思っています。

そういうわけで、私が思うにこの3点が大きな理由で、特に海外からも非常に高い評価を得ている映画祭です。

インターナショナル・コンペティションとアジア千波万波という2つのコンペティションがありまして、これが一番大きな目玉です。これに審査員を迎えて賞が出るわけです。それと並んで特集プログラムだとかワークショップだとか、とにかくいろんなプログラムがあって、会場が7つ8つあって、それが同時に上映されているわけですね。どんな熱心な観客でも映画祭のプログラムを全部観ることができる人は1人もいないんですよ。だから「山形映画祭に行ってきたよ」と言っても1人1人全部違う体験をして帰るわけなんですよ。そこがまた、それぞれの趣味によってどう山形映画祭を探検してくるか、自分で自分なりの発見ができるところが魅力と言えるのだと思います。

ここからはお金の話なのですが、そもそも山形市の主催で始まりました。市からの助成金の金額は最初からずーっと一定です。昔と比べてとてもじゃないけどギリギリの状態になってきているんですね。何せ国際映画祭ですから、海外からお客さんを招待するのが一番のメインのお仕事ですよ。当然ながら飛行機代が上がっていたり、海外とのやり取りの中で非常に出費が増えていて、ギリギリの状態が今続いております。それでいろいろ考えさせていただいているのですが、賞金の優秀賞、要するにインターナショナル・コンペティション優秀賞2作品に各30万円、アジア千波万波激励賞作品に各30万円、それとインターナショナル・コンペティションの審査員特別賞30万円、5本あるんですね。そこをなんとかスポンサーのお名前をつけた賞にできないかなと我々は考えています。企業名を付けて優勝賞の1本目は〇〇さんの賞です、みたいな形です。それもぜひお願いできると嬉しいなと思って今日はまいりました。

当初、山形市主催の時は、例えば映画祭期間中に市の職員さんたちが応援で手伝ってくれていたんです。それが当然ながらNPOで独立したことによってそういうことはなくなりました。それから税金ですよ。これが市の主催ならば税金はかからないわけです。ところがNPOの主催となるとこれはまた税金がかかってくるとか、そういう市の方に頼っていた人件費分をアルバイト代として払わなきゃならなかったり、それから当然ながら山形市の中に事務局があったのが、山形市を出て事務局を借りなきゃならない。今はたまたまご厚意で非常にいい条件でお安く使わせていただいているところはあるのですが、そんな感じです。ですから本当に最初の頃、私が初めて来た頃は素晴らしい心温まる接待をいただいた記憶があるのですが、なかなかそこまで手が回らない状態にどんどんなっていて、でもなんとかそうならないようにがんばっていかうと思っておりますので、ぜひ皆さまのご協力をお願いしたいと思って、本日のお話とさせていただきます。

私は、4月1日からは映画祭の理事長としてそちらに全力を傾けて、まずは今年の10月の開催に向けて、その開催を大成功させるようにがんばりたいと思っておりますので、ぜひ皆さま方のご協力をよろしくお願いいたします。ご清聴どうもありがとうございました。

本日出席 (3 / 10)	会員総数	出席会員数
	105名	58名